

受験番号

名前

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「ぼく」と<sup>ともあき</sup>智明、ナス、ナスの弟のじやがまるは、<sup>あちち</sup>章くんの別荘に来ている。五人はいとこ同士だが、一番年上の章くんに、他の四人はたてつくことができない。

①「昼飯食ったら、みんな外にでろ。ひさしぶりに競泳するぞ」

ぼくらはおとなしくうなずいて、昼食が終わるとダツシユで海パンに着がえ、海辺へ飛びだしていった。「これをやる」と決めたことがスムーズに運ばないと、章くんはとたんにいらいらしはじめて、しばらく機嫌がなおらないんだ。じりじりと熱い砂浜で章くんを待ちながら、ぼくらはおたがいの日焼けあとを<sup>じまん</sup>自慢しあつた。

「ほら、見て。ぼく、二色人間」

じやがまるが得意げにいつて、海パンを少しずりさげて見せる。ナスがそれをさらに引きずりおろそうとして、じやがまるが悲鳴をあげた。太陽の光をうけとめて、きらきらとまばゆい波打ちぎわ。水しぶきを飛ばしながら、じやがまるはすたこら逃げまわる。ぼくらはじやがまるを追いかけて遊んだ。しまいにはだれかれかまわず、おたがいの海パンずりおろし合戦になった。

章くんさえいなければ、と、ぼくは②こんなとき、ついつい考えてしまう。章くんさえいなければ、ぼくらはこんなにも自由で、のびのびしていられるのに。もちろん、そんなことは口にも顔にもださなかつたけど。ぼくは智明の助言を忠実に守っていた。章くんにさからつちやいけない。章くんよりデキるところを見せちやいけない。

だからその日も、沖から浜までの一キロほどの競泳で、ぼくはわざと手をぬいて章くんに負けた。腕のふりをおさえて。足のばたつきを弱めて。すぐ前をいく章くんを追いこさないように。まちがったつて章くんの顔に海水をぶっかけたりしないように。正直いつて、あんまりいい気分じゃなかつた。だつてぼくはフェアに勝ちたかつたし、そんな八百長で章くんをアンフェアに勝たせたくもなかつた。ぼくは③うしろめたい気持ちのまま二着でゴールを決めた。ところが。

「恭。おまえ、腕のふりが鈍つてんぞ」

砂浜で休んでいたぼくにむかつて、章くんが得意満面で説教をはじめたとたん、そんなうしろめたさはすつとんできしまい、ぼくのなかにはまたむくむくとべつの感情がわいてきたんだ。

「いつもいつてるじゃんか。もつとこう、うしろから威勢よくふりあげるんだよ。それから息つぎのタイミングもなつてない。あんなんじゃ一キロ以上、泳げねえぞ」

ぼくは去年から中学の水泳部に入っている。そんなことはコーチから何度もきかされてきたし、本気をだせば章くんよりも速く泳げる。それなのに、なんにも知らずにえらそうにしている章くんが、なんだかとても、ばかみたいに見えた。

(森絵都『子供は眠る』より)

問一 ①「昼飯食ったら、く競泳するぞ」とありますが、これはだれの発言ですか。記号に○をつけなさい。

ア ぼく      イ 智明      ウ ナス      エ じやがまる      オ 章くん

問二 ②「こんなとき」とありますが、どんなときですか。「章くん」という言葉を使って答えなさい。

( )

問三 ③「うしろめたい気持ち」とありますが、どんなことに「うしろめたい気持ち」を感じているのですか。最も

よいものを次から選び、記号に○をつけなさい。

ア 章くんより自分の泳ぎがうまいこと。      イ 章くんとしんけんに勝負しなかつたこと。

ウ 章くんがわざと八百長をしたこと。      エ 章くんを追いぬかずにすんだこと。

問四 章くんの性格が最もよくわかる言葉を、文章中から九字で書きぬきなさい。

( )

|      |    |
|------|----|
| 受験番号 | 名前 |
|------|----|

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

朝の海は、深いきりに包まれ、静まりかえっていました。聞こえるのは、カヤックのオールが水を切る音だけです。少し、風が出てきました。白い太陽が、( ① ) 現れては消えてゆきます。ゆつくりと、きりが動いているのです。オールを止めると、カヤックは、鏡のような水面をしばらくすべり、②「ミルク色の世界」の中で、やがて動かなくなりました。きりの切れ間から、辺りを取り巻く山や森が、ぼんやり見えています。たくさん島々の間を通り、いつのまにか③深い入り江のおくまで来ていたのです。ここは、南アラスカからカナダにかけて広がる原生林の世界です。

じつとしてみると、カヤックをこいでいるとき気づかなかった音が、少しずつ聞こえてきました。ピロロロ——。ハクトウワシの、小鳥のようなさえずりです。が、辺りの森を見わたしても、姿が見えません。ポチャン——と、一ぴきのサケが、海面から三十センチほど飛び上がりました。谷間から、川の音が、たきの音か、かすかな水の音がわたってきます。きりは、絶えず形を変えながら、森の木々の間を、生き物のように伝っています。水面を流れるきりは、ぼくの顔や体を、しつとりとぬらしました。そのときです、不思議な声がかきりの中から聞こえてきたのは、シューツ、シューツ、シューツ——。ぼくは体をかたくして、だんだん近づいてくるその音を待ちました。突然、きりの中から( ④ ) 巨大な黒いかげが現れ、目の前を潮をふきながら通り過ぎていったのです。ザトウクジラ——。広い海原にいるはずのクジラが、どうしてこんな所にいるのだろう。やがて、クジラは尾びれを高く上げ、ゆつくりときりの中に消えてゆきました。

再びカヤックをこぎ始めました。深い森の木々がおし寄せるはまべが、しだいに近づいてきました。バサツ、バサツ——。不意に、ハクトウワシが森の中からまい上がり、頭上を飛び去ってゆきました。ぼくがこの森に近づいてくるのを、ハクトウワシは( ⑤ ) 見ていたのです。

やがて、カヤックが砂はまに乗り上げると、森は、おおいかぶさるようにせまっていました。見上げるような巨木や、その間にびっしりとおいしげる樹林が、⑥ぼくがこの森に入ることをごぼんでいるようでした。

はまべに沿ってしばらく歩くと、⑦だれかが通ったように草のしげみが割れ、そのまま森の中へ続いているのに気がつきました。いったいだれが来たのだろう。ここは、人の住む場所とは遠くはなれた世界です。

巨木の間をぬけ、森に足をふみ入れると、⑧辺りは、夕暮れのように暗くなりました。目が慣れてくると、森の姿が見え始めました。見わたすかぎりの木々が、いや、地面も倒木も、びっしりと緑のコケにおおわれているのです。さまざまな地衣類が、枝から着物のように垂れ下がった木々は、そのまま歩き出しそうな気配でした。ぼくが立っている地面は、かすかな道になり、森のおくへと続いています。土の上に残された大きな足あとを見たと、急に胸がどきどきしてきました。そう、クマの道だったのです。森の中から、今にもクマがやって来そうな気がしました。

(星野道夫 「森へ」より)

問一 ( ① ) ( ④ ) ( ⑤ ) に当てはまる言葉を次から選び、記号で答えなさい。

- ( ① ) …… ( ) ( ④ ) …… ( ) ( ⑤ ) …… ( )
- ア じつと イ ぼうつと ウ しつとりと エ すうつと

問二 ②「ミルク色の世界」とはどのような様子ですか。

※問題はその三に続きます。

|      |     |
|------|-----|
| 受験番号 | 名 前 |
|------|-----|

問三 ③「深い入り江のおく」とありますが、ここはどういう世界なのか。文章中から六字で書き抜きなさい。

|  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|
|  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|

問四 ⑥「ぼくがこの森に入ることをごぼんでいるようでした」とありますが、筆者は森のどのような様子から「ごぼんでいるよう」だと感じたのですか。

問五 ⑦「だれかが通ったように」とありますが、だれが通ったのですか。

問六 ⑧「辺りは、夕暮れのように暗くなりました」とありますが、そうなったのはなぜですか。

三 例のように（ ）に漢字一字を入れて、二字熟語のしりとりを完成させなさい。

例 治―（安）―全―（力）―作―（業）―務

① 羽―（ ）―筆―（ ）―番―（ ）―織

② 実―（ ）―動―（ ）―語―（ ）―校

四 次の連絡事項を伝えるための放送原稿を読んで後の問いに答えなさい。

交通安全委員会から（①）のお知らせです。

最近、通学時の交通マナーについて、地域の人から苦情があったと聞きました。そこで、わたしたち生徒自身ができることはないのか、委員会で話し合ったところ、交通安全標語を作ろうという案が②出しました。標語作りを通して交通マナーについて考えるというわけです。この案を検討し、交通安全委員会では、標語をみなさんから募集することにしました。

募集期間は一月十五日から三十日までです。応募は強制ではありませんが、標語作りを通して（③）というねらいからいっても、みなさん全員に取り組んでほしいと思います。なお、くわしくは募集のポスターを玄関ホールにはりだしますので、確認して下さい。

問一 （①）に当てはまる言葉を次から選び、記号に○をつけなさい。

ア 委員会での取り組み    イ 交通マナー    ウ 今後の計画    エ 交通安全標語募集

問二 ②「出しました」を正しい表現に直しなさい。ただし、四字で書き直すこと。

問三 （③）に当てはまる言葉を文章中から書き抜きなさい。

（ ）

